

学校規模・配置の検討について（東青地区）

■ 論点

- 基本方針を踏まえ、各地区における県立高等学校募集学級数の見込み（令和9年度）による学級数を前提に、重点校・拠点校及び地域校の配置や具体的な学級減案・統合案等について、どのような学校規模・配置が望ましいと考えられるかという視点で協議する。
- 基本方針を踏まえ、定時制課程・通信制課程の配置等について、見直しが必要かという視点で協議する。

1 中学校卒業生数及び県立高等学校募集学級数の見込み

令和2年5月1日現在の児童・生徒数等に基づき推計すると、令和4年度以降の各地区の中学校卒業生数及び県立高等学校の募集学級数は以下のように見込まれる。

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業生数	R4	2,492人	985人	2,112人	1,583人	578人	2,418人	10,168人
	R9 (対R4)	2,216人 (△276)	824人 (△161)	1,935人 (△177)	1,486人 (△97)	464人 (△114)	2,262人 (△156)	9,187人 (△981)
	R14 (対R4)	1,942人 (△550)	752人 (△233)	1,727人 (△385)	1,413人 (△170)	405人 (△173)	2,020人 (△398)	8,259人 (△1,909)
募集学級数	R4	46c1	19～20c1	39c1	33～34c1	13～14c1	39c1	189～192c1
	R9 (対R4)	42c1 (△4)	16～17c1 (△3)	36c1 (△3)	30～31c1 (△3)	10～11c1 (△3)	36c1 (△3)	170～173c1 (△19)
	R14 (対R4)	37c1 (△9)	14～15c1 (△5)	33c1 (△6)	28～29c1 (△5)	9～10c1 (△4)	32c1 (△7)	153～156c1 (△36)

- ※ 中学校卒業生数は、令和2年5月1日現在の児童生徒数を基に高等学校教育改革推進室において各年3月の生徒数を推計したものであり、変動が生じる可能性がある。
- ※ 募集学級数は、各年度の全日制課程における見込み。
- ※ 募集学級数は、地域校の配置に関して基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示している。
- ※ 令和14年度の中学校卒業生数等については、第2期実施計画の学校規模・配置を検討するための参考として示している。

2 令和4年度時点の学校配置状況

学校・学科		年度等	第1期		第2期		第3期		備考
			期間内増減	R4学級数	期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	
重点校	青森高校	普通	△1	6					
	青森西高校	普通	0	6					
	青森東高校	普通	△1	6					
	平内校舎	普通	△1	0	—	—	—	—	R1募集停止 R2年度末閉校
	青森北高校	普通	△1	4					
		スポーツ科学	0	1					
地域校	今別校舎	普通	△1	0	—	—	—	—	R2募集停止 R3年度末閉校
	青森南高校	普通	△1	4					
		外国語	0	1					
	青森中央高校	総合	0	5					
	浪岡高校	普通	0	2					
拠点校	青森工業高校	工業	△1	6					
拠点校	青森商業高校	商業	△1	5					
計			△8	46	△4	42	△5	37	

3 基本方針における学校規模の標準

- 基本となる学校：1学年当たり4学級以上（全ての学校が対象）
- 普通科等の重点校：1学年当たり6学級以上
- 職業教育を主とする専門学科の拠点校：一つの専門学科で1学年当たり4学級以上

4 重点校、拠点校及び地域校の現状について

(1) 重点校について

① 概要

普通科等の高等学校において、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高等学校を「重点校」として配置する。

また、重点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における重点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を重点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

③ 重点校における取組状況（令和元年度実績）

重点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
青森 (10件)	即興型英語ディベート青森交流会	生徒 教員	青森高校と青森南高校の生徒対抗による英語ディベート大会を、ルール習得のために周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：青森南高校】 【他校参加教員：地区内高校】
五所川原 (7件)	理数科校内課題研究発表会	教員	理数科生徒による研究発表会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内中・高校】
弘前 (5件)	医学部志望者対象 学力向上セミナー	生徒 教員	各学年の医学部医学科進学希望者を対象とした予備校講師による講習等を、周辺高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：中南地区・西北地区高校】 【他校参加教員：中南地区・西北地区高校】
三本木 (7件)	英語指導力向上のための研究公開	教員	大学教授を招聘し、英語指導に関する研究成果について協議する研究会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内中・高校】
田名部 (8件)	英語指導力向上事業研究協議会	教員	「TANABU MODEL」(英語に関する田名部高校の指導法)に基づく公開授業及び研究協議を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内高校】
八戸 (9件)	新テスト対策三八地区合同研修会	教員	外部講師を招き、新テストの基本情報等に係る研修会を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内高校】

(2) 拠点校について

① 概要

農業科、工業科、商業科の各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担う高等学校を「拠点校」として配置する。

また、拠点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における拠点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を拠点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林 三本木農業 (三本木農業恵拓)	青森工業 弘前工業 八戸工業	青森商業

③ 拠点校における取組状況（令和元年度実績）

拠点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
五所川原農林 (9件)	GLOBALG. A. P. 国際認証教育に係る情報提供	生徒 教員	認証取得を目指す柏木農業高校に認証審査に向けて作成した資料を情報提供し、農地訪問の上、生徒・教員が具体的なアドバイスを行う。 【他校参加生徒：柏木農業高校】 【他校参加教員：柏木農業高校】
三本木農業 (8件)	農業鑑定競技会の勉強会	生徒 教員	農業鑑定競技会の勉強会を名久井農業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：名久井農業高校】 【他校参加教員：名久井農業高校】
青森工業 (6件)	ボイラー技士受験合同講習会	生徒	2級ボイラー技士資格の合格に向けた講習会を、むつ工業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：むつ工業高校】
弘前工業 (3件)	高校生ものづくりコンテスト電気工事部門研修会	生徒 教員	ものづくりコンテスト参加生徒及び教員を対象とした研修会を、五所川原工業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：五所川原工業高校】 【他校参加教員：五所川原工業高校】
八戸工業 (3件)	ドローンコンテスト	生徒 教員	先進技術を学ぶ機会を創出するため、十和田工業高校との連携によりコンテストを開催する。 【他校参加生徒：十和田工業高校】 【他校参加教員：十和田工業高校】
青森商業 (14件)	CMSを活用したウェブサイト制作講習会	生徒	講師を招聘し、地元企業等との連携による実践的な電子商取引に活用できる力を育成するための講習会を、県内商業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：県内商業高校】

(3) 重点校・拠点校の取組状況の情報共有等について

重点校及び拠点校の取組については、平成30年度から年1回、代表的な取組を「教育広報あおもりけん」に掲載し、その周知を図っている。

また、令和元年度からは、重点校・拠点校相互の情報共有を図るため、重点校・拠点校の教頭または教諭を対象とした「重点校・拠点校連絡協議会」を開催し、高等学校教育改革の考え方や重点校及び拠点校の取組に係る成果、課題等についての意見交換を実施している。

(4) 地域校について

① 配置の考え方及び対応方法

以下のとおり、公共交通機関の状況を考慮し、総合的に判断した上で、配置することとする。

【公共交通機関の状況】

- ・路線の整備状況（通学可能な公共交通機関が存在するか。）
- ・利用時間帯（早朝（おおむね午前6時以前）に乗車しなければならないか。）
- ・利用時間（片道の乗車時間がおおむね1時間を超えるか。）

なお、地域校については、基本方針に定める基準等により対応することとする。

■ 2学級規模の地域校

入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とする。

■ 1学級規模の地域校

募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（＝20人未満）となった場合、募集停止等に向けて、当該高等学校の所在する市町村等と協議する。

なお、協議の際には、基準に該当した翌年度の募集停止を基本とし、通学が困難となる地域の生徒の通学について、当該高等学校の所在する市町村等と連携を図りながら、対応を検討する。

■ 地域校の活性化に向けた対応

地域校の活性化に向けて、教育環境の充実を図るため、学校と地域等が一体となった検討を促す。

② 第1期実施計画における地域校

第1期実施計画では、地域における通学状況を考慮し、以下の高等学校を地域校として配置した。

なお、青森北高校今別校舎、中里高校、田子高校の3校については、平成31年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和2年度に募集停止としたところである。

また、木造高校深浦校舎については、令和2年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和3年度の募集停止に向け、現在、深浦町と協議を進めている。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	青北・今別	木造・深浦 中里	—	六ヶ所	大間	田子

5 定時制課程・通信制課程の現状について

(1) 配置の考え方

定時制課程については、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本とする。

また、通信制課程については、東青、中南及び三八地区に配置することを基本とする。

(2) 第1期実施計画における定時制課程・通信制課程の配置

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗 青森工業	五所川原	尾上総合 弘前工業	三沢	田名部	八戸中央 八戸工業
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

※ 青森工業高校、弘前工業高校及び八戸工業高校の定時制課程（工業技術科）については、令和3年度に募集停止。

(3) 第1期実施計画における取組状況

① 通級による指導の導入

- ・北斗高校 定時制課程（平成30年度～）
- ・八戸中央高校 定時制課程（令和2年度～）

② 後期入学制度の導入

- ・北斗高校 通信制課程（平成30年度～）

③ スクールソーシャルワーカーを6校の定時制課程へ配置

④ スクールライフサポーターを3部制を置く定時制課程へ配置

学校規模・配置の検討について（西北地区）

■ 論点

- 基本方針を踏まえ、各地区における県立高等学校募集学級数の見込み（令和9年度）による学級数を前提に、重点校・拠点校及び地域校の配置や具体的な学級減案・統合案等について、どのような学校規模・配置が望ましいと考えられるかという視点で協議する。
- 基本方針を踏まえ、定時制課程・通信制課程の配置等について、見直しが必要かという視点で協議する。

1 中学校卒業生数及び県立高等学校募集学級数の見込み

令和2年5月1日現在の児童・生徒数等に基づき推計すると、令和4年度以降の各地区の中学校卒業生数及び県立高等学校の募集学級数は以下のように見込まれる。

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業生数	R4	2,492人	985人	2,112人	1,583人	578人	2,418人	10,168人
	R9 (対R4)	2,216人 (△276)	824人 (△161)	1,935人 (△177)	1,486人 (△97)	464人 (△114)	2,262人 (△156)	9,187人 (△981)
	R14 (対R4)	1,942人 (△550)	752人 (△233)	1,727人 (△385)	1,413人 (△170)	405人 (△173)	2,020人 (△398)	8,259人 (△1,909)
募集学級数	R4	46c1	19～20c1	39c1	33～34c1	13～14c1	39c1	189～192c1
	R9 (対R4)	42c1 (△4)	16～17c1 (△3)	36c1 (△3)	30～31c1 (△3)	10～11c1 (△3)	36c1 (△3)	170～173c1 (△19)
	R14 (対R4)	37c1 (△9)	14～15c1 (△5)	33c1 (△6)	28～29c1 (△5)	9～10c1 (△4)	32c1 (△7)	153～156c1 (△36)

※ 中学校卒業生数は、令和2年5月1日現在の児童生徒数を基に高等学校教育改革推進室において各年3月の生徒数を推計したものであり、変動が生じる可能性がある。

※ 募集学級数は、各年度の全日制課程における見込み。

※ 募集学級数は、地域校の配置に関して基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示している。

※ 令和14年度の中学校卒業生数等については、第2期実施計画の学校規模・配置を検討するための参考として示している。

2 令和4年度時点の学校配置状況

学校・学科		年度等	第1期		第2期		第3期		備考
			期間内増減	R4学級数	期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	
重点校	五所川原高校	普通	0	4					
		理数	0	1					
	木造高校	総合	0	4					
地域校	※深浦校舎	総合	0~△1	0~1	—	—	—	—	
	鱒ヶ沢高校	普通	△1	1					
地域校	中里高校	普通	△1	0	—	—	—	—	R2募集停止 R3年度未閉校
重点校	五所川原工科高校	普通	2	2					R3募集開始
		工業	3	3					
	金木高校	普通	△2	0	—	—	—	—	R3募集停止 R4年度未閉校
	板柳高校	普通	△2	0	—	—	—	—	R3募集停止 R4年度未閉校
	鶴田高校	普通	△2	0	—	—	—	—	R3募集停止 R4年度未閉校
	五所川原工業高校	工業	△4	0	—	—	—	—	R3募集停止 R4年度未閉校
	五所川原農林高校	農業	0	4					
計			△7~△8	19~20	△3	16~17	△2	14~15	

※深浦校舎については、令和3年度の募集停止に向け、現在、深浦町と協議を進めていることから幅を設けて示しています。

3 基本方針における学校規模の標準

- 基本となる学校：1学年当たり4学級以上（全ての学校が対象）
- 普通科等の重点校：1学年当たり6学級以上
- 職業教育を主とする専門学科の拠点校：一つの専門学科で1学年当たり4学級以上

4 重点校、拠点校及び地域校の現状について

(1) 重点校について

① 概要

普通科等の高等学校において、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高等学校を「重点校」として配置する。

また、重点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における重点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を重点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

③ 重点校における取組状況（令和元年度実績）

重点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
青森 (10件)	即興型英語ディベート青森交流会	生徒 教員	青森高校と青森南高校の生徒対抗による英語ディベート大会を、ルール習得のために周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：青森南高校】 【他校参加教員：地区内高校】
五所川原 (7件)	理数科校内課題研究発表会	教員	理数科生徒による研究発表会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内中・高校】
弘前 (5件)	医学部志望者対象 学力向上セミナー	生徒 教員	各学年の医学部医学科進学希望者を対象とした予備校講師による講習等を、周辺高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：中南地区・西北地区高校】 【他校参加教員：中南地区・西北地区高校】
三本木 (7件)	英語指導力向上のための研究公開	教員	大学教授を招聘し、英語指導に関する研究成果について協議する研究会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内中・高校】
田名部 (8件)	英語指導力向上事業研究協議会	教員	「TANABU MODEL」(英語に関する田名部高校の指導法)に基づく公開授業及び研究協議を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内高校】
八戸 (9件)	新テスト対策三八地区合同研修会	教員	外部講師を招き、新テストの基本情報等に係る研修会を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内高校】

(2) 拠点校について

① 概要

農業科、工業科、商業科の各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担う高等学校を「拠点校」として配置する。

また、拠点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における拠点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を拠点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林 三本木農業 (三本木農業恵拓)	青森工業 弘前工業 八戸工業	青森商業

③ 拠点校における取組状況（令和元年度実績）

拠点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
五所川原農林 (9件)	GLOBALG. A. P. 国際認証教育に係る情報提供	生徒 教員	認証取得を目指す柏木農業高校に認証審査に向けて作成した資料を情報提供し、農地訪問の上、生徒・教員が具体的なアドバイスを行う。 【他校参加生徒：柏木農業高校】 【他校参加教員：柏木農業高校】
三本木農業 (8件)	農業鑑定競技会の勉強会	生徒 教員	農業鑑定競技会の勉強会を名久井農業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：名久井農業高校】 【他校参加教員：名久井農業高校】
青森工業 (6件)	ボイラー技士受験合同講習会	生徒	2級ボイラー技士資格の合格に向けた講習会を、むつ工業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：むつ工業高校】
弘前工業 (3件)	高校生ものづくりコンテスト電気工事部門研修会	生徒 教員	ものづくりコンテスト参加生徒及び教員を対象とした研修会を、五所川原工業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：五所川原工業高校】 【他校参加教員：五所川原工業高校】
八戸工業 (3件)	ドローンコンテスト	生徒 教員	先進技術を学ぶ機会を創出するため、十和田工業高校との連携によりコンテストを開催する。 【他校参加生徒：十和田工業高校】 【他校参加教員：十和田工業高校】
青森商業 (14件)	CMSを活用したウェブサイト制作講習会	生徒	講師を招聘し、地元企業等との連携による実践的な電子商取引に活用できる力を育成するための講習会を、県内商業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：県内商業高校】

(3) 重点校・拠点校の取組状況の情報共有等について

重点校及び拠点校の取組については、平成30年度から年1回、代表的な取組を「教育広報あおもりけん」に掲載し、その周知を図っている。

また、令和元年度からは、重点校・拠点校相互の情報共有を図るため、重点校・拠点校の教頭または教諭を対象とした「重点校・拠点校連絡協議会」を開催し、高等学校教育改革の考え方や重点校及び拠点校の取組に係る成果、課題等についての意見交換を実施している。

(4) 地域校について

① 配置の考え方及び対応方法

以下のとおり、公共交通機関の状況を考慮し、総合的に判断した上で、配置することとする。

【公共交通機関の状況】

- ・路線の整備状況（通学可能な公共交通機関が存在するか。）
- ・利用時間帯（早朝（おおむね午前6時以前）に乗車しなければならないか。）
- ・利用時間（片道の乗車時間がおおむね1時間を超えるか。）

なお、地域校については、基本方針に定める基準等により対応することとする。

■ 2学級規模の地域校

入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とする。

■ 1学級規模の地域校

募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（＝20人未満）となった場合、募集停止等に向けて、当該高等学校の所在する市町村等と協議する。

なお、協議の際には、基準に該当した翌年度の募集停止を基本とし、通学が困難となる地域の生徒の通学について、当該高等学校の所在する市町村等と連携を図りながら、対応を検討する。

■ 地域校の活性化に向けた対応

地域校の活性化に向けて、教育環境の充実を図るため、学校と地域等が一体となった検討を促す。

② 第1期実施計画における地域校

第1期実施計画では、地域における通学状況を考慮し、以下の高等学校を地域校として配置した。

なお、青森北高校今別校舎、中里高校、田子高校の3校については、平成31年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和2年度に募集停止としたところである。

また、木造高校深浦校舎については、令和2年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和3年度の募集停止に向け、現在、深浦町と協議を進めている。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	青北・今別	木造・深浦 中里	—	六ヶ所	大間	田子

5 定時制課程・通信制課程の現状について

(1) 配置の考え方

定時制課程については、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本とする。

また、通信制課程については、東青、中南及び三八地区に配置することを基本とする。

(2) 第1期実施計画における定時制課程・通信制課程の配置

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗 青森工業	五所川原	尾上総合 弘前工業	三沢	田名部	八戸中央 八戸工業
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

※ 青森工業高校、弘前工業高校及び八戸工業高校の定時制課程（工業技術科）については、令和3年度に募集停止。

(3) 第1期実施計画における取組状況

① 通級による指導の導入

- ・北斗高校 定時制課程（平成30年度～）
- ・八戸中央高校 定時制課程（令和2年度～）

② 後期入学制度の導入

- ・北斗高校 通信制課程（平成30年度～）

③ スクールソーシャルワーカーを6校の定時制課程へ配置

④ スクールライフサポーターを3部制を置く定時制課程へ配置

学校規模・配置の検討について（中南地区）

■ 論点

- 基本方針を踏まえ、各地区における県立高等学校募集学級数の見込み（令和9年度）による学級数を前提に、重点校・拠点校及び地域校の配置や具体的な学級減案・統合案等について、どのような学校規模・配置が望ましいと考えられるかという視点で協議する。
- 基本方針を踏まえ、定時制課程・通信制課程の配置等について、見直しが必要かという視点で協議する。

1 中学校卒業者数及び県立高等学校募集学級数の見込み

令和2年5月1日現在の児童・生徒数等に基づき推計すると、令和4年度以降の各地区の中学校卒業者数及び県立高等学校の募集学級数は以下のように見込まれる。

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校 卒業者 数	R4	2,492人	985人	2,112人	1,583人	578人	2,418人	10,168人
	R9 (対R4)	2,216人 (△276)	824人 (△161)	1,935人 (△177)	1,486人 (△97)	464人 (△114)	2,262人 (△156)	9,187人 (△981)
	R14 (対R4)	1,942人 (△550)	752人 (△233)	1,727人 (△385)	1,413人 (△170)	405人 (△173)	2,020人 (△398)	8,259人 (△1,909)
募集 学級 数	R4	46c1	19～20c1	39c1	33～34c1	13～14c1	39c1	189～192c1
	R9 (対R4)	42c1 (△4)	16～17c1 (△3)	36c1 (△3)	30～31c1 (△3)	10～11c1 (△3)	36c1 (△3)	170～173c1 (△19)
	R14 (対R4)	37c1 (△9)	14～15c1 (△5)	33c1 (△6)	28～29c1 (△5)	9～10c1 (△4)	32c1 (△7)	153～156c1 (△36)

※ 中学校卒業者数は、令和2年5月1日現在の児童生徒数を基に高等学校教育改革推進室において各年3月の生徒数を推計したものであり、変動が生じる可能性がある。

※ 募集学級数は、各年度の全日制課程における見込み。

※ 募集学級数は、地域校の配置に関して基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示している。

※ 令和14年度の中学校卒業者数等については、第2期実施計画の学校規模・配置を検討するための参考として示している。

2 令和4年度時点の学校配置状況

学校・学科		年度等	第1期		第2期		第3期		備考
			期間内増減	R4学級数	期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	
重点校	弘前高校	普通	0	6					
	弘前中央高校	普通	0	6					
	弘前南高校	普通	0	6					
	黒石高校	普通	3	3					R2募集開始
		商業	1	1					
		看護	1	1					
	黒石高校	普通	△3	0	—	—	—	—	R2募集停止
		看護	△1	0	—	—	—	—	R3年度未閉校
	黒石商業高校	商業	△4	0	—	—	—	—	R2募集停止 R3年度未閉校
	柏木農業高校	農業	0	4					
拠点校	弘前工業高校	工業	△1	6					
	弘前実業高校	農業	△1	0	—	—	—	—	R3募集停止
		商業	0	3					
		家庭	0	2					
		スポーツ科学	0	1					
計		△5	39	△3	36	△3	33		

3 基本方針における学校規模の標準

○ 基本となる学校	: 1学年当たり4学級以上（全ての学校が対象）
○ 普通科等の重点校	: 1学年当たり6学級以上
○ 職業教育を主とする専門学科の拠点校	: 一つの専門学科で1学年当たり4学級以上

4 重点校、拠点校及び地域校の現状について

(1) 重点校について

① 概要

普通科等の高等学校において、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高等学校を「重点校」として配置する。

また、重点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における重点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を重点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

③ 重点校における取組状況（令和元年度実績）

重点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
青森 (10件)	即興型英語ディベート青森交流会	生徒 教員	青森高校と青森南高校の生徒対抗による英語ディベート大会を、ルール習得のために周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：青森南高校】 【他校参加教員：地区内高校】
五所川原 (7件)	理数科校内課題研究発表会	教員	理数科生徒による研究発表会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内中・高校】
弘前 (5件)	医学部志望者対象 学力向上セミナー	生徒 教員	各学年の医学部医学科進学希望者を対象とした予備校講師による講習等を、周辺高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：中南地区・西北地区高校】 【他校参加教員：中南地区・西北地区高校】
三本木 (7件)	英語指導力向上のための研究公開	教員	大学教授を招聘し、英語指導に関する研究成果について協議する研究会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内中・高校】
田名部 (8件)	英語指導力向上事業研究協議会	教員	「TANABU MODEL」(英語に関する田名部高校の指導法)に基づく公開授業及び研究協議を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内高校】
八戸 (9件)	新テスト対策三八地区合同研修会	教員	外部講師を招き、新テストの基本情報等に係る研修会を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内高校】

(2) 拠点校について

① 概要

農業科、工業科、商業科の各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担う高等学校を「拠点校」として配置する。

また、拠点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における拠点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を拠点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林 三本木農業 (三本木農業恵拓)	青森工業 弘前工業 八戸工業	青森商業

③ 拠点校における取組状況（令和元年度実績）

拠点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
五所川原農林 (9件)	GLOBALG. A. P. 国際認証教育に係る情報提供	生徒 教員	認証取得を目指す柏木農業高校に認証審査に向けて作成した資料を情報提供し、農地訪問の上、生徒・教員が具体的なアドバイスを行う。 【他校参加生徒：柏木農業高校】 【他校参加教員：柏木農業高校】
三本木農業 (8件)	農業鑑定競技会の勉強会	生徒 教員	農業鑑定競技会の勉強会を名久井農業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：名久井農業高校】 【他校参加教員：名久井農業高校】
青森工業 (6件)	ボイラー技士受験合同講習会	生徒	2級ボイラー技士資格の合格に向けた講習会を、むつ工業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：むつ工業高校】
弘前工業 (3件)	高校生ものづくりコンテスト電気工事部門研修会	生徒 教員	ものづくりコンテスト参加生徒及び教員を対象とした研修会を、五所川原工業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：五所川原工業高校】 【他校参加教員：五所川原工業高校】
八戸工業 (3件)	ドローンコンテスト	生徒 教員	先進技術を学ぶ機会を創出するため、十和田工業高校との連携によりコンテストを開催する。 【他校参加生徒：十和田工業高校】 【他校参加教員：十和田工業高校】
青森商業 (14件)	CMSを活用したウェブサイト制作講習会	生徒	講師を招聘し、地元企業等との連携による実践的な電子商取引に活用できる力を育成するための講習会を、県内商業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：県内商業高校】

(3) 重点校・拠点校の取組状況の情報共有等について

重点校及び拠点校の取組については、平成30年度から年1回、代表的な取組を「教育広報あおもりけん」に掲載し、その周知を図っている。

また、令和元年度からは、重点校・拠点校相互の情報共有を図るため、重点校・拠点校の教頭または教諭を対象とした「重点校・拠点校連絡協議会」を開催し、高等学校教育改革の考え方や重点校及び拠点校の取組に係る成果、課題等についての意見交換を実施している。

(4) 地域校について

① 配置の考え方及び対応方法

以下のとおり、公共交通機関の状況を考慮し、総合的に判断した上で、配置することとする。

【公共交通機関の状況】

- ・路線の整備状況（通学可能な公共交通機関が存在するか。）
- ・利用時間帯（早朝（おおむね午前6時以前）に乗車しなければならないか。）
- ・利用時間（片道の乗車時間がおおむね1時間を超えるか。）

なお、地域校については、基本方針に定める基準等により対応することとする。

■ 2学級規模の地域校

入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とする。

■ 1学級規模の地域校

募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（＝20人未満）となった場合、募集停止等に向けて、当該高等学校の所在する市町村等と協議する。

なお、協議の際には、基準に該当した翌年度の募集停止を基本とし、通学が困難となる地域の生徒の通学について、当該高等学校の所在する市町村等と連携を図りながら、対応を検討する。

■ 地域校の活性化に向けた対応

地域校の活性化に向けて、教育環境の充実を図るため、学校と地域等が一体となった検討を促す。

② 第1期実施計画における地域校

第1期実施計画では、地域における通学状況を考慮し、以下の高等学校を地域校として配置した。

なお、青森北高校今別校舎、中里高校、田子高校の3校については、平成31年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和2年度に募集停止としたところである。

また、木造高校深浦校舎については、令和2年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和3年度の募集停止に向け、現在、深浦町と協議を進めている。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	青北・今別	木造・深浦 中里	—	六ヶ所	大間	田子

5 定時制課程・通信制課程の現状について

(1) 配置の考え方

定時制課程については、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本とする。

また、通信制課程については、東青、中南及び三八地区に配置することを基本とする。

(2) 第1期実施計画における定時制課程・通信制課程の配置

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗 青森工業	五所川原	尾上総合 弘前工業	三沢	田名部	八戸中央 八戸工業
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

※ 青森工業高校、弘前工業高校及び八戸工業高校の定時制課程（工業技術科）については、令和3年度に募集停止。

(3) 第1期実施計画における取組状況

① 通級による指導の導入

- ・北斗高校 定時制課程（平成30年度～）
- ・八戸中央高校 定時制課程（令和2年度～）

② 後期入学制度の導入

- ・北斗高校 通信制課程（平成30年度～）

③ スクールソーシャルワーカーを6校の定時制課程へ配置

④ スクールライフサポーターを3部制を置く定時制課程へ配置

学校規模・配置の検討について（上北地区）

■ 論点

- 基本方針を踏まえ、各地区における県立高等学校募集学級数の見込み（令和9年度）による学級数を前提に、重点校・拠点校及び地域校の配置や具体的な学級減案・統合案等について、どのような学校規模・配置が望ましいと考えられるかという視点で協議する。
- 基本方針を踏まえ、定時制課程・通信制課程の配置等について、見直しが必要かという視点で協議する。

1 中学校卒業生数及び県立高等学校募集学級数の見込み

令和2年5月1日現在の児童・生徒数等に基づき推計すると、令和4年度以降の各地区の中学校卒業生数及び県立高等学校の募集学級数は以下のように見込まれる。

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業生数	R4	2,492人	985人	2,112人	1,583人	578人	2,418人	10,168人
	R9 (対R4)	2,216人 (△276)	824人 (△161)	1,935人 (△177)	1,486人 (△97)	464人 (△114)	2,262人 (△156)	9,187人 (△981)
	R14 (対R4)	1,942人 (△550)	752人 (△233)	1,727人 (△385)	1,413人 (△170)	405人 (△173)	2,020人 (△398)	8,259人 (△1,909)
募集学級数	R4	46c1	19～20c1	39c1	33～34c1	13～14c1	39c1	189～192c1
	R9 (対R4)	42c1 (△4)	16～17c1 (△3)	36c1 (△3)	30～31c1 (△3)	10～11c1 (△3)	36c1 (△3)	170～173c1 (△19)
	R14 (対R4)	37c1 (△9)	14～15c1 (△5)	33c1 (△6)	28～29c1 (△5)	9～10c1 (△4)	32c1 (△7)	153～156c1 (△36)

※ 中学校卒業生数は、令和2年5月1日現在の児童生徒数を基に高等学校教育改革推進室において各年3月の生徒数を推計したものであり、変動が生じる可能性がある。

※ 募集学級数は、各年度の全日制課程における見込み。

※ 募集学級数は、地域校の配置に関して基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示している。

※ 令和14年度の中学校卒業生数等については、第2期実施計画の学校規模・配置を検討するための参考として示している。

2 令和4年度時点の学校配置状況

学校・学科	年度等	第1期		第2期		第3期		備考
		期間内増減	R4学級数	期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	
重点校 三本木高校	普通	0	6					
三沢高校	普通	0	5					英語科を普通科に改編の上、1学級減
	英語	△1	0	—	—	—	—	
野辺地高校	普通	△1	2					
七戸高校	総合	△1	3					
百石高校	普通	△1	2					
	家庭	0	1					
地域校 六ヶ所高校	普通	0～△1	1～2					
拠点校 三本木農業恵拓高校	普通	2	2					R3募集開始
	農業	4	4					
十和田西高校	普通	△1	0	—	—	—	—	R3募集停止 R4年度未閉校
	商業	△1	0	—	—	—	—	
六戸高校	普通	△2	0	—	—	—	—	R3募集停止 R4年度未閉校
三本木農業高校	農業	△5	0	—	—	—	—	R3募集停止 R4年度未閉校
十和田工業高校	工業	△1	4					
三沢商業高校	商業	△1	3					
計		△9～△10	33～34	△3	30～31	△2	28～29	

※六ヶ所高校については、基本方針に定める基準により対応することから、幅を設けて示しています。

3 基本方針における学校規模の標準

- 基本となる学校：1学年当たり4学級以上（全ての学校が対象）
- 普通科等の重点校：1学年当たり6学級以上
- 職業教育を主とする専門学科の拠点校：一つの専門学科で1学年当たり4学級以上

4 重点校、拠点校及び地域校の現状について

(1) 重点校について

① 概要

普通科等の高等学校において、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高等学校を「重点校」として配置する。

また、重点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における重点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を重点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

③ 重点校における取組状況（令和元年度実績）

重点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
青森 (10件)	即興型英語ディベート青森交流会	生徒 教員	青森高校と青森南高校の生徒対抗による英語ディベート大会を、ルール習得のために周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：青森南高校】 【他校参加教員：地区内高校】
五所川原 (7件)	理数科校内課題研究発表会	教員	理数科生徒による研究発表会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内中・高校】
弘前 (5件)	医学部志望者対象 学力向上セミナー	生徒 教員	各学年の医学部医学科進学希望者を対象とした予備校講師による講習等を、周辺高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：中南地区・西北地区高校】 【他校参加教員：中南地区・西北地区高校】
三本木 (7件)	英語指導力向上のための研究公開	教員	大学教授を招聘し、英語指導に関する研究成果について協議する研究会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内中・高校】
田名部 (8件)	英語指導力向上事業研究協議会	教員	「TANABU MODEL」(英語に関する田名部高校の指導法)に基づく公開授業及び研究協議を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内高校】
八戸 (9件)	新テスト対策三八地区合同研修会	教員	外部講師を招き、新テストの基本情報等に係る研修会を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内高校】

(2) 拠点校について

① 概要

農業科、工業科、商業科の各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担う高等学校を「拠点校」として配置する。

また、拠点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における拠点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を拠点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林 三本木農業 (三本木農業恵拓)	青森工業 弘前工業 八戸工業	青森商業

③ 拠点校における取組状況（令和元年度実績）

拠点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
五所川原農林 (9件)	GLOBALG. A. P. 国際認証教育に係る情報提供	生徒 教員	認証取得を目指す柏木農業高校に認証審査に向けて作成した資料を情報提供し、農地訪問の上、生徒・教員が具体的なアドバイスを行う。 【他校参加生徒：柏木農業高校】 【他校参加教員：柏木農業高校】
三本木農業 (8件)	農業鑑定競技会の勉強会	生徒 教員	農業鑑定競技会の勉強会を名久井農業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：名久井農業高校】 【他校参加教員：名久井農業高校】
青森工業 (6件)	ボイラー技士受験合同講習会	生徒	2級ボイラー技士資格の合格に向けた講習会を、むつ工業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：むつ工業高校】
弘前工業 (3件)	高校生ものづくりコンテスト電気工事部門研修会	生徒 教員	ものづくりコンテスト参加生徒及び教員を対象とした研修会を、五所川原工業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：五所川原工業高校】 【他校参加教員：五所川原工業高校】
八戸工業 (3件)	ドローンコンテスト	生徒 教員	先進技術を学ぶ機会を創出するため、十和田工業高校との連携によりコンテストを開催する。 【他校参加生徒：十和田工業高校】 【他校参加教員：十和田工業高校】
青森商業 (14件)	CMSを活用したウェブサイト制作講習会	生徒	講師を招聘し、地元企業等との連携による実践的な電子商取引に活用できる力を育成するための講習会を、県内商業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：県内商業高校】

(3) 重点校・拠点校の取組状況の情報共有等について

重点校及び拠点校の取組については、平成30年度から年1回、代表的な取組を「教育広報あおもりけん」に掲載し、その周知を図っている。

また、令和元年度からは、重点校・拠点校相互の情報共有を図るため、重点校・拠点校の教頭または教諭を対象とした「重点校・拠点校連絡協議会」を開催し、高等学校教育改革の考え方や重点校及び拠点校の取組に係る成果、課題等についての意見交換を実施している。

(4) 地域校について

① 配置の考え方及び対応方法

以下のとおり、公共交通機関の状況を考慮し、総合的に判断した上で、配置することとする。

【公共交通機関の状況】

- ・路線の整備状況（通学可能な公共交通機関が存在するか。）
- ・利用時間帯（早朝（おおむね午前6時以前）に乗車しなければならないか。）
- ・利用時間（片道の乗車時間がおおむね1時間を超えるか。）

なお、地域校については、基本方針に定める基準等により対応することとする。

■ 2学級規模の地域校

入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とする。

■ 1学級規模の地域校

募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（＝20人未満）となった場合、募集停止等に向けて、当該高等学校の所在する市町村等と協議する。

なお、協議の際には、基準に該当した翌年度の募集停止を基本とし、通学が困難となる地域の生徒の通学について、当該高等学校の所在する市町村等と連携を図りながら、対応を検討する。

■ 地域校の活性化に向けた対応

地域校の活性化に向けて、教育環境の充実を図るため、学校と地域等が一体となった検討を促す。

② 第1期実施計画における地域校

第1期実施計画では、地域における通学状況を考慮し、以下の高等学校を地域校として配置した。

なお、青森北高校今別校舎、中里高校、田子高校の3校については、平成31年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和2年度に募集停止としたところである。

また、木造高校深浦校舎については、令和2年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和3年度の募集停止に向け、現在、深浦町と協議を進めている。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	青北・今別	木造・深浦 中里	—	六ヶ所	大間	田子

5 定時制課程・通信制課程の現状について

(1) 配置の考え方

定時制課程については、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本とする。

また、通信制課程については、東青、中南及び三八地区に配置することを基本とする。

(2) 第1期実施計画における定時制課程・通信制課程の配置

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗 青森工業	五所川原	尾上総合 弘前工業	三沢	田名部	八戸中央 八戸工業
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

※ 青森工業高校、弘前工業高校及び八戸工業高校の定時制課程（工業技術科）については、令和3年度に募集停止。

(3) 第1期実施計画における取組状況

① 通級による指導の導入

- ・北斗高校 定時制課程（平成30年度～）
- ・八戸中央高校 定時制課程（令和2年度～）

② 後期入学制度の導入

- ・北斗高校 通信制課程（平成30年度～）

③ スクールソーシャルワーカーを6校の定時制課程へ配置

④ スクールライフサポーターを3部制を置く定時制課程へ配置

学校規模・配置の検討について（下北地区）

■ 論点

- 基本方針を踏まえ、各地区における県立高等学校募集学級数の見込み（令和9年度）による学級数を前提に、重点校・拠点校及び地域校の配置や具体的な学級減案・統合案等について、どのような学校規模・配置が望ましいと考えられるかという視点で協議する。
- 基本方針を踏まえ、定時制課程・通信制課程の配置等について、見直しが必要かという視点で協議する。

1 中学校卒業生数及び県立高等学校募集学級数の見込み

令和2年5月1日現在の児童・生徒数等に基づき推計すると、令和4年度以降の各地区の中学校卒業生数及び県立高等学校の募集学級数は以下のように見込まれる。

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業生数	R4	2,492人	985人	2,112人	1,583人	578人	2,418人	10,168人
	R9 (対R4)	2,216人 (△276)	824人 (△161)	1,935人 (△177)	1,486人 (△97)	464人 (△114)	2,262人 (△156)	9,187人 (△981)
	R14 (対R4)	1,942人 (△550)	752人 (△233)	1,727人 (△385)	1,413人 (△170)	405人 (△173)	2,020人 (△398)	8,259人 (△1,909)
募集学級数	R4	46c1	19～20c1	39c1	33～34c1	13～14c1	39c1	189～192c1
	R9 (対R4)	42c1 (△4)	16～17c1 (△3)	36c1 (△3)	30～31c1 (△3)	10～11c1 (△3)	36c1 (△3)	170～173c1 (△19)
	R14 (対R4)	37c1 (△9)	14～15c1 (△5)	33c1 (△6)	28～29c1 (△5)	9～10c1 (△4)	32c1 (△7)	153～156c1 (△36)

※ 中学校卒業生数は、令和2年5月1日現在の児童生徒数を基に高等学校教育改革推進室において各年3月の生徒数を推計したものであり、変動が生じる可能性がある。

※ 募集学級数は、各年度の全日制課程における見込み。

※ 募集学級数は、地域校の配置に関して基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示している。

※ 令和14年度の中学校卒業生数等については、第2期実施計画の学校規模・配置を検討するための参考として示している。

2 令和4年度時点の学校配置状況

学校・学科		年度等	第1期		第2期		第3期		備考
			期間内増減	R4学級数	期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	
重点校 田名部高校	普通		1	5					R1英語科を普通科に改編
	英語		△1	0	—	—	—	—	
大湊高校	総合		△1	4					
川内校舎	普通		△1	0	—	—	—	—	R1募集停止 R2年度末閉校
地域校 ※大間高校	普通		0~△1	1~2					
むつ工業高校	工業		△1	3					
計			△3~△4	13~14	△3	10~11	△1	9~10	

※大間高校については、基本方針に定める基準により対応することから、幅を設けて示しています。

3 基本方針における学校規模の標準

- 基本となる学校：1学年当たり4学級以上（全ての学校が対象）
- 普通科等の重点校：1学年当たり6学級以上
- 職業教育を主とする専門学科の拠点校：一つの専門学科で1学年当たり4学級以上

4 重点校、拠点校及び地域校の現状について

(1) 重点校について

① 概要

普通科等の高等学校において、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高等学校を「重点校」として配置する。

また、重点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における重点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を重点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

③ 重点校における取組状況（令和元年度実績）

重点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
青森 (10件)	即興型英語ディベート青森交流会	生徒 教員	青森高校と青森南高校の生徒対抗による英語ディベート大会を、ルール習得のために周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：青森南高校】 【他校参加教員：地区内高校】
五所川原 (7件)	理数科校内課題研究発表会	教員	理数科生徒による研究発表会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内中・高校】
弘前 (5件)	医学部志望者対象 学力向上セミナー	生徒 教員	各学年の医学部医学科進学希望者を対象とした予備校講師による講習等を、周辺高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：中南地区・西北地区高校】 【他校参加教員：中南地区・西北地区高校】
三本木 (7件)	英語指導力向上のための研究公開	教員	大学教授を招聘し、英語指導に関する研究成果について協議する研究会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内中・高校】
田名部 (8件)	英語指導力向上事業研究協議会	教員	「TANABU MODEL」(英語に関する田名部高校の指導法)に基づく公開授業及び研究協議を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内高校】
八戸 (9件)	新テスト対策三八地区合同研修会	教員	外部講師を招き、新テストの基本情報等に係る研修会を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内高校】

(2) 拠点校について

① 概要

農業科、工業科、商業科の各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担う高等学校を「拠点校」として配置する。

また、拠点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における拠点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を拠点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林 三本木農業 (三本木農業恵拓)	青森工業 弘前工業 八戸工業	青森商業

③ 拠点校における取組状況（令和元年度実績）

拠点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
五所川原農林 (9件)	GLOBALG. A. P. 国際認証教育に係る情報提供	生徒 教員	認証取得を目指す柏木農業高校に認証審査に向けて作成した資料を情報提供し、農地訪問の上、生徒・教員が具体的なアドバイスを行う。 【他校参加生徒：柏木農業高校】 【他校参加教員：柏木農業高校】
三本木農業 (8件)	農業鑑定競技会の勉強会	生徒 教員	農業鑑定競技会の勉強会を名久井農業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：名久井農業高校】 【他校参加教員：名久井農業高校】
青森工業 (6件)	ボイラー技士受験合同講習会	生徒	2級ボイラー技士資格の合格に向けた講習会を、むつ工業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：むつ工業高校】
弘前工業 (3件)	高校生ものづくりコンテスト電気工事部門研修会	生徒 教員	ものづくりコンテスト参加生徒及び教員を対象とした研修会を、五所川原工業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：五所川原工業高校】 【他校参加教員：五所川原工業高校】
八戸工業 (3件)	ドローンコンテスト	生徒 教員	先進技術を学ぶ機会を創出するため、十和田工業高校との連携によりコンテストを開催する。 【他校参加生徒：十和田工業高校】 【他校参加教員：十和田工業高校】
青森商業 (14件)	CMSを活用したウェブサイト制作講習会	生徒	講師を招聘し、地元企業等との連携による実践的な電子商取引に活用できる力を育成するための講習会を、県内商業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：県内商業高校】

(3) 重点校・拠点校の取組状況の情報共有等について

重点校及び拠点校の取組については、平成30年度から年1回、代表的な取組を「教育広報あおもりけん」に掲載し、その周知を図っている。

また、令和元年度からは、重点校・拠点校相互の情報共有を図るため、重点校・拠点校の教頭または教諭を対象とした「重点校・拠点校連絡協議会」を開催し、高等学校教育改革の考え方や重点校及び拠点校の取組に係る成果、課題等についての意見交換を実施している。

(4) 地域校について

① 配置の考え方及び対応方法

以下のとおり、公共交通機関の状況を考慮し、総合的に判断した上で、配置することとする。

【公共交通機関の状況】

- ・路線の整備状況（通学可能な公共交通機関が存在するか。）
- ・利用時間帯（早朝（おおむね午前6時以前）に乗車しなければならないか。）
- ・利用時間（片道の乗車時間がおおむね1時間を超えるか。）

なお、地域校については、基本方針に定める基準等により対応することとする。

■ 2学級規模の地域校

入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とする。

■ 1学級規模の地域校

募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（＝20人未満）となった場合、募集停止等に向けて、当該高等学校の所在する市町村等と協議する。

なお、協議の際には、基準に該当した翌年度の募集停止を基本とし、通学が困難となる地域の生徒の通学について、当該高等学校の所在する市町村等と連携を図りながら、対応を検討する。

■ 地域校の活性化に向けた対応

地域校の活性化に向けて、教育環境の充実を図るため、学校と地域等が一体となった検討を促す。

② 第1期実施計画における地域校

第1期実施計画では、地域における通学状況を考慮し、以下の高等学校を地域校として配置した。

なお、青森北高校今別校舎、中里高校、田子高校の3校については、平成31年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和2年度に募集停止としたところである。

また、木造高校深浦校舎については、令和2年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和3年度の募集停止に向け、現在、深浦町と協議を進めている。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	青北・今別	木造・深浦 中里	—	六ヶ所	大間	田子

5 定時制課程・通信制課程の現状について

(1) 配置の考え方

定時制課程については、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本とする。

また、通信制課程については、東青、中南及び三八地区に配置することを基本とする。

(2) 第1期実施計画における定時制課程・通信制課程の配置

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗 青森工業	五所川原	尾上総合 弘前工業	三沢	田名部	八戸中央 八戸工業
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

※ 青森工業高校、弘前工業高校及び八戸工業高校の定時制課程（工業技術科）については、令和3年度に募集停止。

(3) 第1期実施計画における取組状況

① 通級による指導の導入

- ・北斗高校 定時制課程（平成30年度～）
- ・八戸中央高校 定時制課程（令和2年度～）

② 後期入学制度の導入

- ・北斗高校 通信制課程（平成30年度～）

③ スクールソーシャルワーカーを6校の定時制課程へ配置

④ スクールライフサポーターを3部制を置く定時制課程へ配置

学校規模・配置の検討について（三八地区）

■ 論点

- 基本方針を踏まえ、各地区における県立高等学校募集学級数の見込み（令和9年度）による学級数を前提に、重点校・拠点校及び地域校の配置や具体的な学級減案・統合案等について、どのような学校規模・配置が望ましいと考えられるかという視点で協議する。
- 基本方針を踏まえ、定時制課程・通信制課程の配置等について、見直しが必要かという視点で協議する。

1 中学校卒業生数及び県立高等学校募集学級数の見込み

令和2年5月1日現在の児童・生徒数等に基づき推計すると、令和4年度以降の各地区の中学校卒業生数及び県立高等学校の募集学級数は以下のように見込まれる。

		東青	西北	中南	上北	下北	三八	県計
中学校卒業生数	R4	2,492人	985人	2,112人	1,583人	578人	2,418人	10,168人
	R9 (対R4)	2,216人 (△276)	824人 (△161)	1,935人 (△177)	1,486人 (△97)	464人 (△114)	2,262人 (△156)	9,187人 (△981)
	R14 (対R4)	1,942人 (△550)	752人 (△233)	1,727人 (△385)	1,413人 (△170)	405人 (△173)	2,020人 (△398)	8,259人 (△1,909)
募集学級数	R4	46c1	19～20c1	39c1	33～34c1	13～14c1	39c1	189～192c1
	R9 (対R4)	42c1 (△4)	16～17c1 (△3)	36c1 (△3)	30～31c1 (△3)	10～11c1 (△3)	36c1 (△3)	170～173c1 (△19)
	R14 (対R4)	37c1 (△9)	14～15c1 (△5)	33c1 (△6)	28～29c1 (△5)	9～10c1 (△4)	32c1 (△7)	153～156c1 (△36)

※ 中学校卒業生数は、令和2年5月1日現在の児童生徒数を基に高等学校教育改革推進室において各年3月の生徒数を推計したものであり、変動が生じる可能性がある。

※ 募集学級数は、各年度の全日制課程における見込み。

※ 募集学級数は、地域校の配置に関して基本方針に基づき入学状況等により対応することから、幅を設けて示している。

※ 令和14年度の中学校卒業生数等については、第2期実施計画の学校規模・配置を検討するための参考として示している。

2 令和4年度時点の学校配置状況

学校・学科	年度等	第1期		第2期		第3期		備考
		期間内増減	R4学級数	期間内増減	R9学級数	期間内増減	R14学級数	
重点校 八戸高校	普通	0	6					
八戸東高校	普通	0	5					
	表現	0	1					
八戸北高校	普通	0	6					
八戸西高校	普通	1	5					
	スポーツ科学	0	1					
三戸高校	普通	△1	1					
五戸高校	普通	△2	0	—	—	—	—	R2募集停止 R3年度末閉校
地域校 田子高校	普通	△1	0	—	—	—	—	R2募集停止 R3年度末閉校
名久井農業高校	農業	△1	2					
八戸水産高校	水産	0	3					
拠点校 八戸工業高校	工業	△1	6					
八戸商業高校	商業	△1	3					
計		△6	39	△3	36	△4	32	

3 基本方針における学校規模の標準

- 基本となる学校：1学年当たり4学級以上（全ての学校が対象）
- 普通科等の重点校：1学年当たり6学級以上
- 職業教育を主とする専門学科の拠点校：一つの専門学科で1学年当たり4学級以上

4 重点校、拠点校及び地域校の現状について

(1) 重点校について

① 概要

普通科等の高等学校において、各校の生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人財の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う高等学校を「重点校」として配置する。

また、重点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における重点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を重点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

③ 重点校における取組状況（令和元年度実績）

重点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
青森 (10件)	即興型英語ディベート青森交流会	生徒 教員	青森高校と青森南高校の生徒対抗による英語ディベート大会を、ルール習得のために周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：青森南高校】 【他校参加教員：地区内高校】
五所川原 (7件)	理数科校内課題研究発表会	教員	理数科生徒による研究発表会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内中・高校】
弘前 (5件)	医学部志望者対象 学力向上セミナー	生徒 教員	各学年の医学部医学科進学希望者を対象とした予備校講師による講習等を、周辺高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：中南地区・西北地区高校】 【他校参加教員：中南地区・西北地区高校】
三本木 (7件)	英語指導力向上のための研究公開	教員	大学教授を招聘し、英語指導に関する研究成果について協議する研究会を、周辺中・高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内中・高校】
田名部 (8件)	英語指導力向上事業研究協議会	教員	「TANABU MODEL」(英語に関する田名部高校の指導法)に基づく公開授業及び研究協議を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：県内高校】
八戸 (9件)	新テスト対策三八地区合同研修会	教員	外部講師を招き、新テストの基本情報等に係る研修会を、周辺高校の教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加教員：地区内高校】

(2) 拠点校について

① 概要

農業科、工業科、商業科の各学科における専門科目を幅広く学び、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担う高等学校を「拠点校」として配置する。

また、拠点校が実施する教育活動への各校の参加や学習成果の共有等の連携により、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ることとしている。

② 第1期実施計画における拠点校

第1期実施計画では、以下の高等学校を拠点校として配置し、各校と連携した取組を進めてきた。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林 三本木農業 (三本木農業恵拓)	青森工業 弘前工業 八戸工業	青森商業

③ 拠点校における取組状況（令和元年度実績）

拠点校名 (取組件数)	主な取組		
	取組名	対象	取組概要
五所川原農林 (9件)	GLOBALG. A. P. 国際認証教育に係る情報提供	生徒 教員	認証取得を目指す柏木農業高校に認証審査に向けて作成した資料を情報提供し、農地訪問の上、生徒・教員が具体的なアドバイスを行う。 【他校参加生徒：柏木農業高校】 【他校参加教員：柏木農業高校】
三本木農業 (8件)	農業鑑定競技会の勉強会	生徒 教員	農業鑑定競技会の勉強会を名久井農業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：名久井農業高校】 【他校参加教員：名久井農業高校】
青森工業 (6件)	ボイラー技士受験合同講習会	生徒	2級ボイラー技士資格の合格に向けた講習会を、むつ工業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：むつ工業高校】
弘前工業 (3件)	高校生ものづくりコンテスト電気工事部門研修会	生徒 教員	ものづくりコンテスト参加生徒及び教員を対象とした研修会を、五所川原工業高校の生徒・教員にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：五所川原工業高校】 【他校参加教員：五所川原工業高校】
八戸工業 (3件)	ドローンコンテスト	生徒 教員	先進技術を学ぶ機会を創出するため、十和田工業高校との連携によりコンテストを開催する。 【他校参加生徒：十和田工業高校】 【他校参加教員：十和田工業高校】
青森商業 (14件)	CMSを活用したウェブサイト制作講習会	生徒	講師を招聘し、地元企業等との連携による実践的な電子商取引に活用できる力を育成するための講習会を、県内商業高校の生徒にも参加を呼びかけ開催する。 【他校参加生徒：県内商業高校】

(3) 重点校・拠点校の取組状況の情報共有等について

重点校及び拠点校の取組については、平成30年度から年1回、代表的な取組を「教育広報あおもりけん」に掲載し、その周知を図っている。

また、令和元年度からは、重点校・拠点校相互の情報共有を図るため、重点校・拠点校の教頭または教諭を対象とした「重点校・拠点校連絡協議会」を開催し、高等学校教育改革の考え方や重点校及び拠点校の取組に係る成果、課題等についての意見交換を実施している。

(4) 地域校について

① 配置の考え方及び対応方法

以下のとおり、公共交通機関の状況を考慮し、総合的に判断した上で、配置することとする。

【公共交通機関の状況】

- ・路線の整備状況（通学可能な公共交通機関が存在するか。）
- ・利用時間帯（早朝（おおむね午前6時以前）に乗車しなければならないか。）
- ・利用時間（片道の乗車時間がおおむね1時間を超えるか。）

なお、地域校については、基本方針に定める基準等により対応することとする。

■ 2学級規模の地域校

入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とする。

■ 1学級規模の地域校

募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（＝20人未満）となった場合、募集停止等に向けて、当該高等学校の所在する市町村等と協議する。

なお、協議の際には、基準に該当した翌年度の募集停止を基本とし、通学が困難となる地域の生徒の通学について、当該高等学校の所在する市町村等と連携を図りながら、対応を検討する。

■ 地域校の活性化に向けた対応

地域校の活性化に向けて、教育環境の充実を図るため、学校と地域等が一体となった検討を促す。

② 第1期実施計画における地域校

第1期実施計画では、地域における通学状況を考慮し、以下の高等学校を地域校として配置した。

なお、青森北高校今別校舎、中里高校、田子高校の3校については、平成31年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和2年度に募集停止としたところである。

また、木造高校深浦校舎については、令和2年4月に基本方針に定める基準に該当したことから、令和3年度の募集停止に向け、現在、深浦町と協議を進めている。

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	青北・今別	木造・深浦 中里	—	六ヶ所	大間	田子

5 定時制課程・通信制課程の現状について

(1) 配置の考え方

定時制課程については、様々な事情を抱える生徒に高等学校教育を受ける機会を提供する観点から、6地区ごとに配置することを基本とする。

また、通信制課程については、東青、中南及び三八地区に配置することを基本とする。

(2) 第1期実施計画における定時制課程・通信制課程の配置

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
定時制	北斗 青森工業	五所川原	尾上総合 弘前工業	三沢	田名部	八戸中央 八戸工業
通信制	北斗	—	尾上総合	—	—	八戸中央

※ 青森工業高校、弘前工業高校及び八戸工業高校の定時制課程（工業技術科）については、令和3年度に募集停止。

(3) 第1期実施計画における取組状況

① 通級による指導の導入

- ・北斗高校 定時制課程（平成30年度～）
- ・八戸中央高校 定時制課程（令和2年度～）

② 後期入学制度の導入

- ・北斗高校 通信制課程（平成30年度～）

③ スクールソーシャルワーカーを6校の定時制課程へ配置

④ スクールライフサポーターを3部制を置く定時制課程へ配置